

ユネスコ WAT_Montréal 2011 への参加を通じた環境デザイン国際教育プログラムの構築と国際都市間連携の実施方法に関する研究

STUDY ON INTERNATIONAL EDUCATION PROGRAM IN ENVIRONMENTAL DESIGN THROUGH PARTICIPATION IN WAT_MONTREAL 2011

川北 健雄 デザイン学部環境・建築デザイン学科 教授
岡村 光浩 デザイン教育研究センター 准教授
金野 千恵 大学院芸術工学研究科 助手
三友 奈々 日本大学理工学部 助手
佐々木 宏幸 デザイン学部環境・建築デザイン学科 特別准教授

Takeo KAWAKITA Department of Environmental Design, School of Design, Professor
Mitsuhiro OKAMURA Center for Design Studies, Associate Professor
Chie KONNO Graduate School of Arts and Design, Assistant
Nana MITOMO College of Science and Technology, Nihon University, Research Associate
Hiroyuki SASAKI Department of Environmental Design, School of Design, Special Associate Professor

要旨

本研究では、2011年11月にモンリオールで開催されたユネスコによる景観と環境デザインに関する国際ワークショップ WAT_Montréal への参加を通して、その特徴や運営上の工夫について考察する。さらに各国からの参加教員へのヒアリングを通して WAT の意義を確認し、このような国際教育プログラムを構築し、国際都市間連携を進めていくためには、どのような事柄を重視すべきであるのかについて検討する。

WAT は 2003 年以來ほぼ毎年開催されており、8 回目にあたる今回の WAT_Montréal 2011 は、周知な準備と巧みな運営のもとに優れた成果が生み出された。その成功要因としては、①地元の行政機関との連携、②過去の 7 回の WAT の実施経験の活用、③インターネットによる事前の情報提供、等を挙げることができる。また、参加教員へのヒアリングから WAT 開催の意義について考察した結果、ユネスコの目的でもある異文化交流の促進の他、外からの視点による都市の価値や課題の見直し、個人間および大学間のネットワークの充実と拡大、参加経験を生かした教育手法の改善、新たな国際教育研究プログラムの可能性、等が意識されていることがわかった。

今後もここで得られた知見を生かしつつ、国際的なネットワークをさらに充実させて、優れた教育プログラムの構築と国際的な都市間の連携をはかっていきたい。

Summary

This paper investigates the methods and characteristics of the WAT_Montréal: an international workshop on landscape and environmental design officially recognized by UNESCO, held in November 2011.

WAT has been held almost every year since 2003. The eighth edition in Montréal was effectively managed and three factors of success have been observed: 1) cooperation with local municipalities, 2) application of experiences from former WATs, and 3) provision of information on the internet. Through the interviews to the professors of the workshop, we also found that several points are recognized in common to be the significances of the WAT: promotion of cultural exchange, revision of the city's value and problems from outside view, extension of the network among the individuals and universities, improvement of the pedagogic methods utilizing the experiences, development of new international educational programs, etc.

We aim to develop new educational programs in the future, through application of the knowledge acquired in the WAT, and through extension of our networks among the cities in the world.

1 研究の背景と目的

本研究では、2011年11月にモンリオールで開催された、ユネスコによる景観と環境デザインに関する国際ワークショップ WAT_Montréal 2011 への参加を通して、その特徴や運営上の工夫について考察する。また、参加教員へのヒアリング等を通して、WAT の意義について検討し、このような国際教育プログラムを成功に導き、国際的な都市間の連携を推進するための諸要因について分析する。

2 WAT の概要とこれまでの経緯

WAT (Workshop_atelier/terrain) は、ユネスコの社会科学事業である MOST¹⁾プログラムにおいて、モンリオール大学が担当する、景観と環境デザインに関する講座 CUPEUM²⁾の一環として行われている国際ワークショップである。最初の WAT は 2003 年にイタリアの Reggio Carabria で開催され、以降、表 1 に示すようにアラブ諸国から東アジア、そしてカナダへと移動しつつ、ほぼ毎年実施されてきた。³⁾

毎回のワークショップには、建築、ランドスケープ、または都市デザインの専門分野を有する諸大学から、原則として 1 大学につき 1 名の教員と 3 名程度ずつの学生（ただし、開催国とモンリオール大学の定員は別枠）が参加する。ワークショップの課題には、毎回、開催都市に特有の問題がとりあげられる。学生たちは、互いに国籍の異なる 4 名程度ずつのグループに分かれ、現地見学、専門家によるセミナー、各国からの教員による指導、中間講評会等を含む 10 日間程度の集中的な共同作業を通して、開催都市の今後の都市整備に生かされることを意図した提案をとりまとめる。

最終成果物は、具体的な対象地に関するプロジェクトと

して、A0 サイズ 2 枚のパネル等にまとめられる。ワークショップの最終日には、開催都市の行政関係者や専門家を審査員として招いたプレゼンテーションが行われ、優秀な提案を行ったグループに対しては賞が授与される。

なお、本学は 2009 年に神戸で開催された WAT_Kobe において、開催都市の環境デザイン系の大学として、初めてこれに参加すると同時に、神戸市との連携のもと、ワークショップの準備、実施、運営等に協力して重要な役割を果たした。2011 年の WAT_Montréal は、本学としては、神戸に続く 2 回目の参加となる。

3 WAT_Montréal 2011 のテーマと開催概要

2011 年の WAT は、CUPEUM の所在地であるモンリオール市において、2011 年 11 月 21 日から 12 月 2 日までの 12 日間、8 カ国 12 大学の参加を得て開催された。日本からの参加大学は、本学、神戸大学、明治大学の 3 校で、各校から教員 1 名と学生 3 名ずつが参加した。

課題対象地は、モンリオール市の玄関口である Montréal-Trudeau 国際空港から中心市街地に至るハイウェイ沿いの、鉄道や水路が並行して走る、長さ約 17km の領域 (gateway corridor) である。毎日約 10 万人の人々がここを通過するにもかかわらず、その周辺には、雑多な断片の集積からなる、陳腐で灰色がかった景観が広がっている。土木構造物に支配され、荒れた工業跡地や半端な緑地が多く存在するこの領域を、国際的な玄関口にふさわしい、活力に溢れた魅力的な場所として再構築するための提案が求められた。

今回の WAT の特徴のひとつは、学生たちによるワークショップの開催に先立って、同じテーマの国際コンペが実施されたことである。"YUL-MTL: Moving landscapes international ideas competition"と名付けられたこのア

開催年	開催都市	開催国	開催期間	参加国	参加大学数	参加学生数
2004	Marrakesh	モロッコ	11月25日～12月4日(10日間)	カナダ、イタリア、レバノン、モロッコ	8	45
2005	Saida	レバノン	11月17日～11月26日(10日間)	カナダ、イタリア、レバノン、モロッコ	5	37
2006	Mahdia	チュニジア	11月16日～11月25日(10日間)	カナダ、イタリア、レバノン、モロッコ、チュニジア	7	38
2007	Ganghwa	韓国	11月6日～11月15日(10日間)	カナダ、イタリア、レバノン、チュニジア、韓国	8	48
2008	Jinze (Qingpu-上海)	中国	10月20日～10月30日(11日間)	カナダ、イタリア、レバノン、モロッコ、チュニジア、韓国、中国、シリア	9	46
2009	神戸	日本	11月9日～11月20日(12日間)	カナダ、イタリア、レバノン、モロッコ、チュニジア、中国、シリア、日本	11	47
2011	Montréal	カナダ	11月21日～12月2日(12日間)	カナダ、イタリア、レバノン、モロッコ、チュニジア、中国、シリア、日本	12	48

表 1 WAT 開催状況一覧表

アイデアコンペ⁴⁾は、WATの主催者でもあるCUPEUMが進行主体となって実施された。都市、建築、ランドスケープ領域の専門家を応募資格者として、2011年6月9日に募集が開始され、10月7日に提出が締め切られた。22カ国、60作品を超える応募の中から、11作品が佳作、3作品が優秀作に選出され、WATの開催2日目である11月22日には、WAT参加者も出席する会場において、結果発表と受賞者によるプレゼンテーションが行われた。

WATの参加学生には、このコンペで提示された様々なアイデアを参考にしつつ、コンペの対象地を分割した6つの小エリアについて、さらに具体的な提案を行うことが求められた。48人のWAT参加学生は、国籍を混合した4名ずつ12組のチームに分けられ、6つの小エリアのそれぞれに対して、2組のチームが提案を競い合うこととされた。また、12名の参加教員も6組のペアに分かれ、各ペアが同じエリアを課題対象地とする2組のチームの指導を行うこととされた⁵⁾。

4 ワークショップの日程と作業内容

主な行事日程と開催場所は表2の通りである。ワークショップは市の中心部で開催され、参加者は、地元モントリオール大学の学生と教員を除き、全員が同一の宿舎⁶⁾に滞在した。開会式、セミナー、YULコンペ入賞者の発表等が行われた会議場⁷⁾は宿舎から歩いて5分程度の距離にあり、同会議場の上階にある大部屋が、ワークショップの作業スタジオとして利用された。最終発表会は、これらから少し離れて地下鉄等での移動が必要なモントリオール大学にて行われた。



写真1 雪の中での現地見学会

日付	時間	内容	場所
11月21日	12:00-12:30	チーム発表・顔合わせ	宿舎食堂
"	13:30-17:00	YULコンペ入賞者とWAT参加者との会	会議場
"	17:00-17:45	開会式	会議場
11月22日	09:00-16:30	セミナー	会議場
"	19:00-22:00	YULコンペ授賞式と公式発表会	会議場
11月23日	08:30-12:30	現地見学会	各課題対象地
11月24日 ～11月25日		ワークショップ作業	会議場上階のスタジオ
11月26日	13:00-17:00	中間発表会	会議場上階のスタジオ
"	18:00-20:00	歓迎パーティ	市役所ホール
11月27日 ～12月01日		ワークショップ作業	会議場上階のスタジオ
12月02日	13:00-17:00	最終発表会	モントリオール大学
"	18:00-18:30	優秀作品発表・授賞式 閉会式	モントリオール大学
"	20:00-22:00	参加者パーティ	モントリオール大学

表2 主な行事日程と開催場所

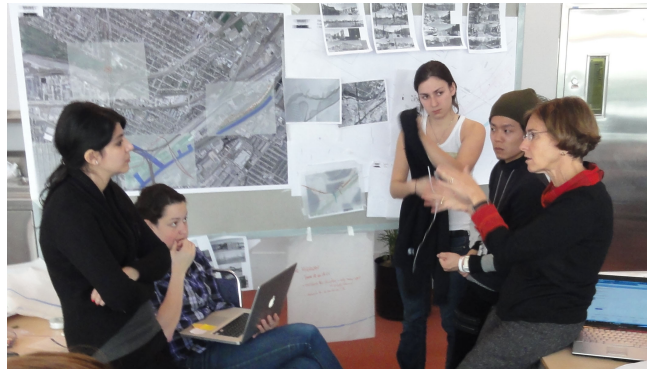


写真2 チーム別ミーティングの様子

ワークショップの期間中、学生たちはほぼ毎日、朝から深夜までスタジオで作業を行い、教員もほぼ同様にスタジオに常駐した。中間発表会より前の3日間で対象地のリサーチと広域デザインを行い、中間発表会より後の5日間で、より詳細なデザインと図面表現を行う、というのが全体的な作業の流れであった。

最終発表会では、図面パネルの展示と共に、チーム毎にパワーポイントを用いたプレゼンテーションが行われ、ユネスコや行政の関係者および様々な専門家が審査員として招かれて講評を行い、優秀作品の選定を行った。提案内容は全体的に優れた水準にあると評価され、いくつかの斬新なアイデアについては、行政の関係者からも、今後の計画に積極的に生かしていきたいという声が聞かれた。

5 対象地に関する情報の整理と事前提供

このような短期間のワークショップが成功に終わった

要因のひとつに、主催者による周到な準備を挙げることができる。前述のように、今回のワークショップはテーマの共通する国際コンペと連動する形で実施されたことから、対象地の現状や課題に関する様々な情報が、ケベック州やモントリオール市の行政関係者との連携のもとに整理され、対象地の将来像についても明確な提示がなされた。それらの情報は、コンペの募集開始時にウェブサイトに掲載され、ワークショップの参加者も、事前にそれらの情報を精読して理解しておくことが可能であった。

6 WATの意義についての考察

このようなWATの意義を、各国から集まった教員は、どのようにとらえているのだろうか。これについて調べるため、ワークショップ終盤の11月29日～12月1日にかけて、チームの指導にあたった教員12名のうちの9名に対してヒアリングを行った。その結果、回答内容には表現の違いはあるものの多くの共通点がみられ、概ね以下のよう項目に集約することができた。

（全般的な意義）

- ・ユネスコの目的に沿った異文化交流の促進。
- ・国際化社会の中でのローカルアイデンティティの確認。
- ・場所特有の課題を現地で考察する貴重な機会の提供。
- ・専門領域での世界共通の今日的課題に関する認識共有。

（開催都市が得るもの）

- ・ワークショップから得られた様々なアイデアの活用。
- ・国際的な認知度の向上。
- ・都市の価値や課題に対する外からの視点による見直し。

（参加学生と参加教員が得るもの）

- ・文化的背景の異なる人々とのチームワークの経験。
- ・個人間の国際的な人間関係の拡大。
- ・専門領域の課題に対する異なったアプローチの経験。
- ・国際的な意識の向上と視野の拡大。

（参加大学が得るもの）

- ・国際的な認知度の向上とネットワークの構築。
- ・参加経験を通じた教育手法の改善や教育水準の向上。
- ・新たな国際教育研究プログラムへの展開の可能性。

7 まとめ

以上のように、WAT_Montréal 2011では巧みな運営のもとに優れた成果が生み出されたが、成功の主な要因は下記の通りであると考えられる。

①当該ユネスコ講座を担当するモントリオール大学の本地地での開催であり、地元の行政機関との連携のもとに十分な準備が行われた。

②過去の7回のWATの経験が、全体プログラム、チーム構成、指導方法、等の運営面に生かされた。初めての参加校はなく、指導教員全員が、過去のいずれかのWATの経験者であった。

③インターネットによる情報提供が、事前に行われた。YUL-MTLコンペとの連携テーマとすることで、対象地に関する様々な情報を、ワークショップ参加者も事前に入手して学習することができた。

国際教育プログラムや都市間連携を有意義なものとするには、継続性のある活動と、行政を含めた関係者との連携が不可欠であり、インターネット等の利用技術の開発も重要であると考えられる。

今後も、このような知見を生かし、WATへの参加を通して得られた大学および関係者間のネットワークを発展させつつ、環境デザインおよび関連領域における優れた国際教育プログラムの構築と、国際都市間の連携のための活動を、継続的に展開していきたい。

注

- 1) Management of Social Transformations の略。
- 2) la Chaire UNESCO en paysage et environnement de l'Université de Montréal
- 3) 過去のWATの開催概要と成果物は下記のCUPEUMウェブサイトにて公開されている。(2012.07.31現在)
<http://www.unesco-paysage.umontreal.ca/projet/workshop-atelier-terrain-wat-unesco>
- 4) 募集要項は下記サイトに掲載。(2012.07.31現在)
http://mtlunescodesign.com/docs/projects/YUL-MTL_rules_2011-06-09.pdf
- 5) 6つの小エリアを2組ずつの学生チームが担当し、2人の教員が両チームの指導に当たるというこの方式は、WAT_Kobeで最初に採用されて今回も踏襲された。
- 6) Hôtel Travelodge Montréal Centre
- 7) Palais des congrès de Montréal